

仕事が楽しい人 F i l e . 4 : ジミー・アラニスさん&ルイス・サンヒネスさん (自動車整備士)

◆ジミーさん&ルイスさんの自動車整備士としての活躍

ジミー・アラニスさん、ルイス・サンヒネスさんが自動車に興味を持ち始めたのは、それぞれ家族に由来します。ジミーさんは叔父さんが小さな整備工場を経営しており、幼い頃からそこに入り浸って自動車整備の面白さに触れたと言います。一方ルイスさんはお父さんが長距離トラックの運転手で、自分でも簡単な整備をする方でした (ペルーでは道中に整備できる工場がない場合が多いので、長距離トラックの運転手は大抵自分で整備ができます)。小さな頃からお父さんの後にくっついて、あれは何、これは何と質問している内に自分でも本を読んだりして勉強し始めたとのこと。

二人は自動車整備の面白さをこう語ります。常に新しいモデル、技術が出現し、学ぶことに終わりが無いこと。ペルーでは 60 年代、70 年代の車も現役で走っていますから、新しい車の知識、技術を常に更新していかなければならないだけでなく、古い車に使われている技術や部品も系統だって覚えておかなければいけません。そうした、新しい知識・技術との出会いが常にあることが、自動車整備の魅力だそうです。

ジミーさんはペルー北部の高校(ペルーでは中高一貫で 5 年制)卒業後、首都リマに単身上京、国立の専門学校でメカニックとしての道を歩み始めました。同じタイミングでリマ生まれリマ育ちのルイスさんも同じ専門学校に入学、二人はすぐに仲良くなり、その後ペルー最大のディーラー、ミツイ・アウトモトリスの研修生となり、学校を卒業し、正社員になるタイミングも同じでした。

しかし、ルイスさんにとってはそれからが試練でした。2000 年に正社員になった後、毎年あるトヨタの昇級試験には合格するものの、同じタイミングで入社したジミーさんは最上級のマスターに合格した翌年、入社からいきなり 5 年目で、なんとトヨタ社主催のコンクールでナショナル・チャンピオン、次いでラテンアメリカチャンピオンにまで上り詰めたのです。どちらかと言うと天才肌のジミーさんが瞬間に問題を抱えた車を修理するのに対して、実直なルイスさんは毎晩遅くまで残って、いろいろなテストを行って原因を推測し、一つひとつの問題を解決していくタイプでした。問題の原因を早く究明することはひとつのセンスですが、論理的な思考力と経験の賜物でもあります。ルイスさんは、それまでミツイでは誰も使っていなかったヘッドライトを自分で買って来て、手元が暗いのをカバーしながら、毎晩遅くまで様々な車の問題と格闘し、自身の経験を積み、問題解決能力を高めていきました。

ジミーさんがラテンアメリカチャンピオンになってから 3 年後、徐々に力をつけてきたルイスさんにもコンクール出場のチャンスが回ってきました。しかしこの時は力及ばず 3 位、翌年もかなり接戦だったものの 2 位、それでも立派なものですが、「支えてくださった皆さんに申し訳ない」とルイスさんは男泣きに泣いたそうです。そしてその翌年の 2010 年、

ようやく念願のナショナルチャンピオンになりました。

二人は言います。チャンピオンになるのはそれが目的ではなく、日々のたゆまぬ知識・技術の研鑽と、基本を反復して習慣化した結果なのだと。ただ、今の知識・技術はすぐに陳腐化するし、基本は反復していないと身から離れてしまう。だからこれがゴールではないのだと。

今二人はミツイの教育係として後輩の指導に当たっています。しかし今でも難しい案件、重要な案件は彼らに回ってきます。解決する問題が難しければ難しいほど、楽しいと彼らは言います。

#### ◆ジミーさん&ルイスさんが大切にしているキーワード

「謙虚さ(humilidad)」自分の知識・技術に驕らず、生涯一メカニックとして常に研鑽を怠らず、助けを求める人には自分が他の人にしてもらったように惜しみなく自分の持っているものを与えること。

#### ◆ジミーさん&ルイスさんからのメッセージ

実際照れ屋さんの二人からはメッセージはいただけませんでしたが、彼らとの会話の中で印象的だったことが、「勉強できることは幸せだと思う」ということです。ペルーでは多くの会社で教育への投資があまり行われておらず、同じトヨタのディーラーでも継続的に研修があったり、上司が指導に当たったりすることはあまりありません。また、本が高かったりして、なかなか自主的な勉強に励むことができません。働きながら、常に自分の知識・技術を向上していけるということはとても幸せだと思う、と二人は言います。

#### ◆ジミーさん&ルイスさんのパワー〇〇

お二人とも、元気の源は「家族」とのことです。

ジミーさん、ルイスさんともに、奥さんとお子さんが二人。ペルー人はどんな時でも家族が一番。家族のために働いているので、家族からパワーをもらっています。

#### ◆平堀が感じ取ったジミーさん&ルイスさんの凄さ

1月末から2月初旬にペルーへ渡航し（渡航内容は、私と小川のコンサルタントコラム2月号に記載してあります）、その初日に、作田文子さんの通訳を介して、ジミーさんとルイスさんからお話を伺いました。そして、今回の「仕事が楽しい人」のレポートは、作田さんに作成いただきました。

お二人との面談は2時間にも及びましたが、彼らから伝わってきたのは、自動車整備という職業に対する誇りでした。その理由は、彼らが、あらゆる質問に沈着冷静、そして、自信を持って答えていたからです。お話を伺った場所も、トヨタの自動車は何台も並ぶショールームのど真ん中で、違和感もなく、ごく自然にお二人のお話しに集中できました。

私が、ジミーさんとルイスさんからお話を伺った中で最も心に残ったのは、“ジミーさん&ルイスさんが大切にしているキーワード”の欄に紹介されている「謙虚さ(humilidad)」でした。自動車整備士の仕事を通じて得たやりがいや、苦勞した出来事について尋ねても、回答の結びは、決まって「謙虚さ(humilidad)」の大切さを説くものでした。凄いことをしているのだけど、奢らない心というか、そもそも本人は、凄いことをしているという自覚がなく、「先輩や上司、同僚、そして家族がいるから頑張っている」という思いが、心の中に充満していると表現した方が妥当かもしれません。

何だか、我々が遠い昔に置き忘れてしまった大切な思いを、呼び起されたような感じがしました。

リマにあるミツアウトモリスの店舗は大規模で、ショールームの裏側には整備工場があり、車の整備の状況が、顧客もガラス越しに一目で見られるようになっています。工場内も見学したのですが、いたるところに5S(Seiri,Seiton,Seisou,Seiketsu,Sitsuke)のポスターが貼られていて、誠に綺麗でした。また、整備した自動車の出庫を待つブースには、雑誌はもちろんのこと、ゲームやネットサーフィンができるパソコンが並び、マッサージやネイルも無料で受けられるようなサービスが整っていました。そして、働いている人たちがマニュアルに規定された受け答えではなく、人間味にあふれた、心のこもった対応をしていると感じました。

我々日本人が本来大切にしてきた“思いやり”の精神や“謙虚さ”を、ジミーさんとルイスさんからだけではなく、ツアウトモリスで働くみなさんから、改めて教えていただいた感じがしました。

#### ◆ジミーさん&ルイスさんのプロフィール

職業：自動車整備士

所属：ペルー ミツアウトモリス(トヨタ)

URL：[www.mitsuiautomotriz.com](http://www.mitsuiautomotriz.com)

#### ◆自動車整備士ってどんな仕事？

整備工場やガソリンスタンド、ディーラーなどで、自動車の整備、点検、修理にあたる。整備士になるには、実務経験の後、国の検定試験に合格して資格を取得する方法と、養成施設（国土交通省指定の専門学校や工業高校や各都道府県の講習所）を修了し、民間の認定試験に合格して資格を取得する方法がある。資格は3級、2級、1級があり、2級整備士になると整備工場を営業できる。近年は技術が進み、自動車の構造・装置が複雑化しており、とりわけハイテク化された装置への高度な技術が必要とされている。このような専門知識を持った整備士が不足しているのが現状で、ニーズは高い。また、ハイブリッドカーをはじめ環境重視の社会に適応できる知識も求められ、自動車整備士の役割は変わりつつある。なかでも、これらの最新技術や知識を持つ1級整備士は、技術コンサルタントとし

て活躍することが期待されている。

(13歳のハローワークHP、村上龍氏の職業紹介から抜粋)

◆自動車整備士に求められる能力

- ・専門技能：自動車整備士としての専門知識、専門技能
- ・調査・分析・問題解決能力：専門知識、専門技能を駆使して、解決する力
- ・粘り強さ：あきらめずに、やり切る力
- ・探究心：新しい知識・技能への関心と習得
- ・コミュニケーション能力：物事を人へ伝達する力